

パンセの木 Pensee Tree

ことわざの話

「光陰矢のごとし」という言葉があります。光陰、つまり時間が過ぎるの
が早いことのとえですね。南北朝時
代に著された會我物語の中の表現が、
今日もことわざとして使われています。
現代英語にも、
「Time flies like an arrow . . .」
といふことわざがあります。

私は高一の時、英語の授業中、この
二つのことわざを見比べてつづきま
した。「日本語の英訳なのではないか？」
と。しかし、日本の南北朝時代の書物
を英語圏の人々が読んだはずはないし、

パンセ個別指導学院
発行所：埼玉県所沢市西
所沢1-12-4-5F
TEL：04-2925-7560
E-mail：pensee-21-nish
itoko@water.ocn.ne.jp

教室紹介 たかの台教室

西武国分寺線、国分寺を出発すると玉川上水を眺めながら到着するのは鷹の台駅です。駅前花屋さんの上のテラスにあるたかの台教室は去年の四月にオープンしました。周囲にはいくつもの学校があり、制服姿で立ち寄る生徒も多く、地域に密着したのかな雰囲気があります。

部活上がりで耐えるように座る中学生、コツコツと問題を進める受験生、成績の上がつたテストの答案用紙をそとと差し出す高校生。それぞれに目標を持ち、肅々と学習の習慣を身につけているように見えます。

まだまだ新しい教室です。これから生徒のみならず雰囲気をつくっていく自由があります。室長先生は、塾生・パンセ・家庭とが三位一体の関係になることに重きを置きたい、と考えています。どれか一つだけが突出した主役にならないように、それぞれの意思を大切にすることを目指しています。たかの台教室の未来をみんなで見守っていきましょ。

その逆もありません。日本語も英語も長い時間をかけて現代語になつていくわけですが、時代も文化もまったく異なる人々の使う言語に「瓜二つ」の表現があることに感動しました。それ以来私は、英語を力を入れて勉強するようにした記憶があります。

たぶんその頃の私は、英語に対して興味を湧く時期にあったのでしよう。ある晩、翌日の定期テストの準備もほったらかして、辞書を味方に前々からの疑問の解決に立ち向かいました。
When に疑問詞のほか接続詞としての用法があるのなら、where にも接続詞としての用法があるんじゃないか？
答えはすぐに見つかりました。やはり、

where には接続詞としての用法があり、
ことわざが用例として出ていました。
Where there is a will there is a way
直訳すると、「意志のあるところには道（方法）がある」となります。きつと当時の私は「日本語と英語に違いは無いではないか！」と真夜中に大声で叫んだのではないかと思います。

おすすめします

パンセの指導で主教材として使われてきたテキストの製本版が完成しました！
[中学英語]
『P-text ~英語のしくみがわかるテキスト~』
パンセ教務部
以上、各教室までお問合せください

[高校英語]
『英文法解説』金子書房
『基礎と研究 現代英文法』数研出版

学力をつくる *Pensee*



'09冬期 Brush Up 講習開始！

冬期Brush Up講習が始まりました。今年のついに「一年ごれ」については、頑張ったな...と具体的に振り返ることが大切です。なぜなら、一年間の反省から来年やるべきことが見えてくるからです。パセでは、みなさんの学習状況を講師、室長、塾長のトリプルレポートアップシステムで見守っています。せかくの個別指導なので、積極的にアドバイスをもらうのが学力向上の一番の近道です。冬期講習の申込の二次締切は十八日です。今日からまた、新たな目標に向かつて一歩ずつ共に歩んでいきましょ。

挨拶の話

「アミーゴ」という言葉をどこかしらで耳にしたことのある人は多いと思います。カナダに住んでいた友人が、車でアメリカを縦断してメキシコの国境付近まで行ったときのことです。スペイン系の民族に出会いました。そして突然「トモダチ、トモダチ！」と声をかけられたといいます。後で知ったのは、現地で挨拶として使われる「アミーゴ」という言葉が「友達」という意味を持つということでした。

海を越えて旅するとき、現地の言葉を知っておくと必ずコミュニケーションに役立ちます。とくに挨拶の言葉はどの国でも必要です。相手の国の文化である母国語を使って話しかけるといことは、「自分の国の文化に興味を持ってくれたのだ」と伝わるので、必ず相手の顔に笑みがこぼれます。さて、メキシコの話のつづきです。「トモダチ、トモダチ」の後に、当時日本のCMで使われていた文句「バザールデゴザール！」と陽気に話しかけてきたそうです。それを聞いた友人は、思わず笑ってしまい、自分が日本人であることを相手に見破られてしまったのですね。結局、高い土産ものを買ったことになってしまったということでした。商売には気をつけたいものですが、日本の言葉を知っていてくれるのは、やはりうれしい気持ちになりますね。

編集後記

今年パセでは、「パセツリー」を通じてコミュニケーションの「場所」をつくってきたいと発行を始めました。上に紹介した『P-text』は、長い研究の積み重ねを経て完成した、独自の構成を持つ英文法テキストです。中学生はこれをマスターすれば英語のしくみが頭に入るようになっていきます。高校生は、ほかに紹介した文法書も合わせて読み込むことで、世界に通用する英文法力が完成します。パセ教務部では今後も教材研究に力を注いでいきます。

パセ編集部では、これからさまざまな努力をして「パセの木」の枝を広げていきます。パセ編集部